

説教題：主の兄弟として(57～58)

聖書:マタイ 13章53～58節

＜口語訳＞

新約聖書22～頁

マタイ 13章53～58節

＜新共同訳＞

新約聖書27～ 頁

マタイ 13章53～58節

＜新改訳第3版＞

新約聖書27～ 頁

マタイ 13章53～58節

＜塚本訳＞

新約聖書110～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ13:53～58節**の「**御子イエス・キリスト様**」が「**郷里伝道**」なされた箇所です。
 - ⇒「**御子イエス・キリスト様**」にとって、「**郷里伝道**」は、**ナザレ**での**宣教**で、**会堂**で語られましたが、**郷里の人々**は、**不信仰**で、**主**は、「**そこではあまり奇蹟を行われなかった。(出来なかったのである。)**と(58)あります。
 - ⇒「**郷里**」は、**人**によって、それぞれそれぞれ異なります。**主**は、「**預言者が尊敬されないのは、その郷里と家族のところだけである**」と、語られました。
 - ⇒「**郷里**」を狭く考えることも、出来ますが、**主**は、「**この世**」、すなわち、「**悪魔・悪霊**」が**支配する世**を念頭に語られています。
 - ⇒「**見て見ない**」世界であると、**OA師**は、語っておられます。

本論；

◇本日、**マタイ書13:51～52節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ13章51～52節**；**使徒マタイ**は、「**御子イエス・キリスト様**」が「**郷里伝道**」(57～58)をを通して、弟子たち、**主の兄弟**として、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」が、示されていると、あかししています。

◇**13:51～52節**；**塚本訳**◆

郷里における伝道の理解

「53 イエスはこれらの譬を終えると、そこを去り、
54 郷里(ナザレ)に行ってその礼拝堂で教えられた。すると人々が驚いて言った、「この人はどこからこの知恵と、奇蹟とを覚えてきたのだろう。」

55 これはあの大工の息子ではないか。母はマリヤで、兄弟はヤコブとヨセフとシモンとユダではないか。

56 女兄弟たちは、みんなわたし達の所に住んでいるではないか。するとこの人は、こんなことを皆どこから覚えてきたのだろう。」

57 こうして人々はイエスにつまずいた。しかしイエスは彼らに言われた、「預言者が尊敬されないのは、その郷里と家族のところだけである。」

58 彼らの不信仰のゆえに、そこではあまり奇蹟を行われなかった。(出来なかったのである。)と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**53～57節a**；「イエスはこれらの譬を終えると、そこを去り(53)」、「郷里(ナザレ)に行ってその礼拝堂で教えられた。すると人々が驚いて言った、「この人はどこからこの知恵と、奇蹟とを覚えてきたのだろうか(54)」、「これはあの大工の息子ではないか。母はマリヤで、兄弟はヤコブとヨセフとシモンとユダではないか(55)」、「女兄弟たちは、みんなわたし達の所に住んでいるではないか。するとこの人は、こんなことを皆どこから覚えてきたのだろうか(56)」、「こうして人々はイエスにつまずいた(57a)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、エルサレムからガリラヤに移られ、「主の弟子たち」を教えられて、群衆も押しかけていたのです。

⇒主は、聴く耳のある弟子たちに「**譬え**」を使って、分かりやすく、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」、「**神の奥義**」)について語られました。

⇒しかし、「**御子イエス・キリスト様の郷里の人々**」は、「郷里の人イエス」を見て、「**王なる救い主(メシヤ)**である主」が、見えませんでした。

⇒まして、今日の教会では、人としての「**御子イエス・キリスト様**」は、見えません。今は、霊の目をもって見る時だからです。

⇒**御子イエス・キリスト様**は、有能なニコデモに、「水と御霊によって生れなければ、**神の国**に入ることができません」と、言われました。

⇒「郷里」は、身近であるが、相手の心が理解できないことがあります。

⇒夫婦、親、兄弟姉妹、親しい人々が、相手の心の機微を理解することが容易ではありません。同じ**神信仰に生きる人々**が、心通じ、祈り合えるのです。

⇒【口語訳】 ヤコブ 1:12

試錬を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを

忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。

◇**マタイ13:57b~58節**；「彼らの不信仰のゆえに、そこではあまり奇蹟を行われなかった。(出来なかったのである。)(57b)」、「しかしイエスは彼らに言われた、「預言者が尊敬されないのは、その郷里と家族のところだけである(58)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「預言者は、自分の郷里や自分の家以外では、どこでも敬われないことはない」と、婉曲的に身内の不信仰を示されました。

⇒「郷里伝道」が無意味であるということではありません。ガリラヤ地方は、弟子たちの故郷でもありましたから、主は、忍耐が必要なことを教えて下さったのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、郷里の人々を愛し、公生涯の多くをガリラヤ周辺で過ごされましたが、弟子たち以外、「**御子イエス・キリスト様**」を「**王なる救い主(メシヤ)**」である主」と、受け入れる人々は、少なく、癒された人々や群衆が、敵対者となり、十字架の死へと追いやるのです。

⇒「郷里伝道」において、私たちは、主が愛しておられることを覚えたいと思います。

⇒「郷里伝道」で、周囲を気にして、**神不信**に陥らないで、主の愛と信頼を信じて、主が求められることに心を尽くしたいと願います。

⇒【口語訳】へブル10:36

神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は**マタイ13:53～58節**の「**御子イエス・キリスト様**」が「郷里伝道」なされたかしょです。
 - ⇒「**御子イエス・キリスト様**」にとって、「郷里伝道」は、ナザレでの宣教で、会堂で語られましたが、郷里の人々は、不信仰で、主は、「そこではあまり奇蹟を行われなかった。(出来なかったのである。)」と(58)あります。
 - ⇒「郷里」は、人によって、それぞれ異なります。主は、「預言者が尊敬されないのは、その郷里と家族のところだけである」と。
 - ⇒「郷里」を狭く考えることも、出来ますが、主は、「この世」、すなわち、「**悪魔・悪霊**」が支配する世を念頭に語られています。
 - ⇒「見て見ない」世界であると、**OA師**は、語っておられます。

⇒「郷里」は、主を愛して生きる教会の交わり、
礼拝、祈りです。教会の主は、状況の変化で
も、変わりなくともにいて下さいます。

⇒【口語訳】へブル 7:24

しかし彼は、永遠にいますかたであるので、
変らない祭司の務を持ちつづけておられる
のである。